



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 313号 2011.3.28 発行 社会政策研究所

=====

大阪府庁 障がい者が働く「ハートフルオフィス」を開設します

大阪府 報道発表 2011年3月28日

主に知的障がいのある非常勤作業員が庁内の事務補助作業を行う標記オフィスを本庁舎内に開設しますのでお知らせします。開設当日に橋下知事が作業員への激励にオフィスに訪問する予定です。

日時 平成23年4月1日(金) 知事訪問は、午後1時30分ごろ(予定)【10分程度】

場所 本館1階北エレベータ横(現:企画厚生課分室)

職員 知的障がいのある非常勤作業員 5人 指導員(非常勤嘱託員) 2人

「大阪府ハートフルオフィス推進事業」【知事重点事業】

【目的】 府庁における知的障がい者・精神障がい者の非常勤雇用を拡充し、その業務経験を活かして、一般企業等への就職につなげる目的で実施します。

集中配置方式による「ハートフルオフィス」を開設し、全庁から、大量発送作業などの軽易な事務作業を集約することにより、業務の安定的な確保や職場環境・支援体制の充実に図ります。

【事業内容】 知的・精神障がい者の非常勤雇用を拡充、障がい者の雇用・就労機会を拡大します。4月から本庁舎、10月から咲洲庁舎に主に知的障がいのある作業員を集中配置する「ハートフルオフィス」を設置し、全庁から軽易な事務作業を集約して実施します。

<受注業務の例>

- ・大量文書発送準備作業、簡易なデータ入力、大量シュレッダー作業
刊行物の訂正シール貼り、イベント・会議準備など。
- ・これまで外部委託している運送業務の一部の直営化を検討。

紙すきで再起 今度は応援

朝日新聞 2011年3月28日

義援金付きはがきを持つ奥上陽一代表(左)とデザイン担当の河田里江さん=交野市星田5丁目

東日本大震災で被災した障害者施設や作業所を支援しようと、交野市星田5丁目の紙すき作業所「紙好き交流センター麦の会」が義援金付きはがきを作り、販売を始めた。代表の奥上陽一さん(61)は阪神大震災で工場がほぼ全壊したが、紙すきの「教え子」からのエールで再出発できた経験がある。奥上さんは「阪神大震災で人のありがたみを知った。今度は応援する側になりたい」と話す。

豊中市内にあった包装資材製造工場が阪神大震災でほぼ全壊し、奥上さんは父親が経営する会社倉庫に工場と自宅を移した。だがしばらくは何も手に着かず、ぼうぜんとする日々だった。

背中を押してくれたのは仕事の傍ら府内の障害者作業所などで技術指導をしていた紙すきの教え子たち。工場が被災したことを知り、激励の手紙やカンパを寄せてくれた。「その



時の応援がなければ今の自分はなかった」と振り返る。

震災から約1年後、障害者らを雇用する紙すき作業所として再出発した。被災した工場の廃材で作った紙すき枠で、牛乳や酒の紙パックを再利用した絵はがきなどを販売。さらに全国の障害者施設や作業所へ紙すき指導行脚も始めた。

東日本大震災で被害の大きかった宮城、岩手県には紙すき指導で訪ねた施設がある。岩手県の作業所は被害はなかったものの震災後は作業を休止し、仙台市内の二つの障害者施設には今も連絡がついていないという。

はがきは1枚100円。印刷経費などを除いた70円分が義援金となる。「You'll never walk alone. ~みんなで乗り越えよう~」か「心は一つ」と書かれた2種類がある。「you...」はサッカー日本代表の長友佑都選手が15日の試合後に掲げた日本国旗に書かれていたメッセージだ。

府社会福祉協議会を通じて府内の障害者施設などでも販売している。集まった義援金は岩手県の障害者作業所を通じて障害者福祉に役立ててもらおう予定だ。問い合わせは麦の会(072・893・9620)へ。(小池暢)

避難先スタッフ奮闘

朝日新聞 2011年3月28日

福島施設から来た女兒は、看護師の介助で元気に食事をとっていた = 高崎市足門町

東日本大震災で被災した福島県の重度心身障害者7人が、県内の施設に身を寄せている。受け入れ側も計画停電や物資の不足に頭を痛めるなか、家族と離れた障害者たちが笑顔で暮らせるようケアに励んでいる。(瀧沢貴子)

「お肉だよ。食べる？」

重度の心身障害児が暮らす高崎市足門町の「群馬整肢療護園」の食堂で、車いすの女兒(12)が看護師の運ぶスプーンをほおぼっていた。



少し間があくと、女兒は看護師の体をぼんぼんとたたいた。無邪気な催促に、周りの大人から笑顔がこぼれる。

そばにいるもう1人の女兒(11)の車いすには「おちついたらまた会おう!! いってらっしゃい!!」と書かれた花の折り紙が飾られていた。

2人は福島県いわき市の福島整肢療護園から来た。四肢のまひや知的障害があり、11歳の女兒は目が見えない。施設は福島第一原発から30キロ圏のすぐ外にある。暖房は使えず、水が出ないため職員が3キロほど離れた浄水場に通う。

2人をいわき市まで車で迎えに行った群馬整肢療護園の石川正克事務長は「家族は落ち着いたら会いに行くと言っていたが、いつ来られるか……。施設の近くの店は全部閉まっていたし、本当に大変だろう」と思いやる。

群馬でも一部の医薬品が手に入りづらくなっており、停電で職員が通勤できなくなるときもある。それでも、清水信三園長は「安心して任せてもらえるようスタッフは張り切っている」という。

渋川市の障害者支援施設「誠光荘」も、福島県相馬市から50代~60代の重度心身障害者4人を受け入れた。停電の間は非常灯しかつかず、水も止まる。自家発電機ではたんの吸引機を動かすのが精いっぱい。職員は階段で食事を運び上げ、懐中電灯を頼りに食事のケアをする。

真下宗司施設長は「職員には負担がかかるが、仲間が大変な思いをしている今、できることはやりたい」と話した。

重度の障害者40人を群馬や長野、静岡などが受け入れた。桐生市の両毛整肢療護園も障害児を1人迎えている。

389カ所1444人7世帯 受け入れ可能岡山県内

山陽新聞 2011年3月28日

東日本大震災で、高齢者や障害者、親を失った子どもなど、援護が必要な人々の受け入れや、現地の避難所、施設でサポートに当たる介護職員を派遣する準備が岡山県内で進められている。県などの26日現在のまとめでは、389カ所の社会福祉施設で計1444人と7世帯の受け入れが可能。派遣できる職員は168人にする。

	県内で受け入れ可能な施設数(カッコ内は人数等)				派遣可能な介護職員数
	高齢者施設	障害者施設	児童関係の施設	生活保護施設	
県	161(693人)	75(216人)	30(200人)	5(15人)	98人
岡山市	66(174人)		29(77人・2世帯)	1(5人)	35人
倉敷市	20(63人)	※県まとめ	1(5世帯)	1(1人)	35人
計	247(930人)		60(277人・7世帯)	7(21人)	168人

県と岡山、倉敷市によると、特別養護老人ホームなどの高齢者施設が247カ所930人。障害者施設が75カ所216人。児童養護施設など児童関係の施設が60カ所277人と7世帯。生活保護施設が7カ所21人。厚生労働省の要請で準備。実際の要援護者受け入れや職員派遣については、同省の指示を受けて今後調整するという。

約80人が入所する特別養護老人ホーム・幸輝園(岡山市中区国府市場)は、要援護者5人の受け入れと、職員4人の派遣を表明。国富隆夫施設長は「運営は当然厳しくなるが、少しでも被災地の力になれば」と話す。

県保健福祉課は「現地では避難所に多く的高齢者や障害者が身を寄せ、親を亡くした子どもも多数いるだろう。介護職も足りていない状況が考えられる。各施設の協力で、県内の支援態勢を整えたい」としている。

厚生労働省によると26日現在、全国の施設で約5万9000人の受け入れが可能で、施設職員8千人以上を派遣できる。被災地の近隣では、受け入れや派遣を既に実施している自治体もあるという。

永年勤続と新規就職祝う 伊達

北海道新聞 2011年3月28日



早坂会長(右から2人目)から表彰状と記念品を受け取る永年勤続者

【伊達】知的障害者らを雇用する事業所でつくる西胆振心身障がい者職親会(早坂文雄会長)は27日、永年勤続者と新規就職者を祝う会を市内のホテルで開いた。

同会は現在、市内や近隣市町の68事業所の会員が約150人の障害者らを雇用している。恒例の祝う会は、5年以上から5年おきの勤続者と、新たな就職者を表彰

している。

今年の対象者は5~35年の勤続者20人と新規就職者9人。祝う会には職場の同僚や家族ら約70人が出席した。永年勤続者たちは、温かい拍手を受けながら会場に入場し、壇上で早坂会長から、表彰状と記念品を受け取った。

表彰者を代表し、市内のクリーニング業サクマで35年間働き続けている石田典子さん(56)が「この日を迎えることができうれしい。周囲の人たちに感謝している」と、お礼の言葉を述べた。(五十嵐俊介)

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行